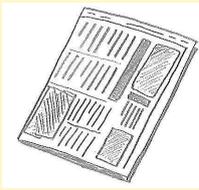
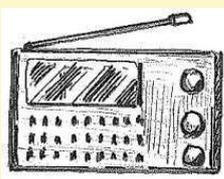


情報化した社会と私たちの生活	()組	氏
	()番	名

なおみさんたちのクラスでは、「情報産業としての新聞社の働き」について学習した後、「どう生かす、情報ネットワーク」というまとめの授業が行われました。

まず最初に、グループごとに「新聞」、「テレビ」、「インターネット」、「ラジオ」の4つのメディアを比かくして、それぞれの持ちょうを話し合ってまとめることになりました。

【資料1 なおみさんがまとめたノート】

<p>新聞</p>  <p>◆持ち歩いて読んだり、記事を切りぬいて保そんしたりできる。</p> <p>◆ [①]</p>	<p>テレビ</p>  <p>◆大切な情報を、すばやく多くの人に伝えることができる。</p> <p>◆ [②]</p>
<p>インターネット</p>  <p>◆自分が必要なときにいつでも情報を得ることができる。</p> <p>◆ [③]</p>	<p>ラジオ</p>  <p>◆音声の情報なので、料理や農作業をしながらでも聞ける。</p> <p>◆ [④]</p>

➡ これらのメディアの特色をよく知り、使い分けていくことが大切だ！

(1) 資料1の [①] ~ [③] に最もふさわしい特色を、次のア~ウの中からそれぞれ1つずつ選んで、記号を書きましょう。

- ア 知りたい情報を検索してとり出すことができる。
- イ 文字や写真を何度でも読み返すことができる。
- ウ 映像によって実際の様子を見ることができる。

①	
②	
③	

(2) なおみさんたちは、【 ④ 】のラジオの特色がなかなか思いつかないので、先生に質問をして、次のような会話をしました。会話文中の、先生やたくやさんの発言を参考にしながら、解答らんの書き出しにそって、災害時におけるラジオの特色を考えて書きましょう。

【先生との会話】

なおみ： 先生、ラジオの特色が思いつかないのですが。

先生： ヒントを出しましょう。先生は災害ひなん用のひなんバッグの中に、水や乾パンの他にラジオと電池を入れています。なぜだと思いますか？

たくや： 分かったぞ。この前、家族で山にキャンプに行ったんだけど、キャンプ場ではテレビも新聞も見れなかったし、お母さんは、けい帯電話のじゅう電が切れてこまっていたのを思い出したよ。

例えば、災害で高いところにひなんした場合には、

次になおみさんたちは、先生の用意した「土砂災害」のえい像を見た後、「大雨が続いて土砂災害のき険があるのでひなんの指示がでたとき、全員が無事にひなんするにはどのような情報と行動が必要か」について話し合い、そこで出た意見を次のA～Fの6つのカードにまとめました。そして最後に、先生が黒板に下の表をつくって、6つのカードを「自助」、「共助」、「公助」という3種類に分け、考えをまとめていきました。

カードA

雨の量や天気などの気象情報を分せきし、き険があれば防災無線やパトロールをしてひなんをよびかける。

カードB

大雨が続いているときなどは、見たいテレビがなくてもテレビをつけておき、必要な情報がえられるようにしておく。

カードC

定期的に、地区の住民によるひなんくん練を行い、ひなん場所を確にんしておく。

カードD

外に出でていて情報がえられない時は、自分のはんだんで、日ごろから家族で決めておいた場所へひなんする。

カードE

ひなん指示が出てひなんをするときは、近所の高れい者にも声をかけて、いっしょにひなんする。

カードF

土砂災害のけい報やひなんのよびかけを、テレビやラジオで報道したり、インターネットで配信したりする。

(3) 上の6つのカード記号A～Fを、下の表の「(3) カード分け」のらんには2つずつ書きましょう。

(4) その上で、「共助」の例を参考に、「自助」と「公助」の言葉の意味を考え、下の表の「(4) 言葉の意味」のらんには書きましょう。

分類	自助	共助	公助
(3) カード分け			
(4) 言葉の意味		(例) 近所の人がおたがいに助け合うこと。 となり近所や地区などによる自主的な災害へのそなえ。	